

楽ら読く楽ら書く 第22号

平成26年1月発行

精華町立図書館

所在地：〒619-0285 京都府相楽郡精華町大字南稲八妻小字北尻 70 番地
電話：0774-95-1911 FAX：0774-95-3976
HP：<http://library.town.seika.kyoto.jp>

おすすめの本

『ルリユール』 村山早紀 ポプラ社/F45

“ルリユール”とは何でしょうか？なじみのない言葉かもしれませんが、本をオーダーメイドで美しく装丁しなおしたり、古くなった本を修復して綺麗に製本しなおしたりする職人の事です。「もう一度つなげる」という意味のフランス語からくる名前です。この物語は、海辺にある風早かざはやという街と、その丘の上にひっそりと建つルリユール工房が舞台となっています。

叔母さんの初盆のために、家族よりも一足先におばあちゃんの住む街へやってきた13歳の瑠璃は、不思議な夢に導かれて街の片隅の洋館へたどりつきました。そこは赤い髪の外国人、クラウディアのルリユール工房。彼女の噂を聞いて持ち込まれるのは、ずっと昔に亡くなったはずの伯父から突然届いた思い出の本、小さい頃に盗んでしまった親友の本、思い出のアルバムと、大切な人への気持ちのこもったものばかり。瑠璃を取り巻く人たちの温かな物語です。

『ルリユールおじさん』 いせひでこ 理論社/E10

ルリユールの工房、その仕事は、いったいどんな様子なのでしょう？

大切な植物図鑑が壊れて困っていたソフィー。新しく買うよりも、その図鑑をなおしたかったソフィーがたどりついたのはルリユール工房でした。そしてルリユールおじさんの丁寧で緻密な手仕事を経て、壊れた図鑑はソフィーのための世界に1つだけの美しい姿によみがえります。パリの片隅の工房と職人の姿を、いせひでこさんが淡くやさしく描いた絵本です。

『手づくり製本の本』 嶋崎千秋 誠文堂新光社/O22.8

ルリユールの物語を読んで製本に興味があった方は、こんな本も一緒にどうぞ。製本家へのインタビューや、こだわりとひらめきのつまった色々な種類の本、そして作り方が紹介されています。職人じゃないんだから製本だなんて…と思った方もひるまず手にとってみてください。美しく、可愛らしく装った本たちの姿に、眺めているだけでもドキドキしてきますよ。